神奈川県考古学会

考古かながわ

第30号

2004年８月19日

無　　　題

曽　根　博　明

神奈川県考古学会は設立されて14年を経過し、会員も約430人を数える。
もちろん会員は考古学に関心のある人であろう。県内で積極的に考古学にかかわりをもとうとしている人が、これだけ多くいることは、まことに心強い限りであるが、一方では活動の停滞を危惧する声もみられる。

そこで会員の関心が、どのようなところにあるのかを考えてみる必要を感じている。

会員は、研究のために考古学を学ぶ人、仕事の必要から手段としての考古学を学ぶ必要のある人、考古学を自由に楽しみ学ぶ人、それから考古学を学ぶには少し疲れ過ぎそれでも離れられない人に分ける。というのはどうだろうか。さしずめ筆者などは後段の人間でしょうが、考古学の醍醐味は何かを問えば、やはり時空を超えた歴史の真実の断片の一部を誰でもが発見できるチャンスがある。といったことにあるのではないかと思う。

研究者・埋蔵文化財行政職員の人や考古学愛好者、それにいささか疲れた人もみんな未知の発見の喜びにあこがれた時があったはずである。それを実践できるのであれば、すべての会員が同じ土俵で研究活動することも夢ではないだろうし、活動も飛躍的に活性化するのだろう。

発掘調査は難しいかもしれないが、資料整理や分布調査など、研究者と考古学愛好者とがチームを作り数年をかけて特定の地域史や個別テーマの研究を行い、それを発表会や考古論叢誌上に掲載するなどといったことは可能なのではないかと思うが、いかがであろうか。

２００４年度総会を開催

さる６月12日（土）、かながわ労働プラザにおいて2004年度神奈川県考古学会の総会を開催しました。ここに総会の内容を報告します。会則に則り、寺田会長を議長に選出した後、以下の議事が総会に諮られました。

議事１　2003年度事業報告
議事２　2003年度収支決算報告
議事３　2004年度事業計画案
議事４　2004年度収支予算案

議事１　2003年度事業報告

（総会）総会を2003年６月７日、かながわ県民センターにて開催。
（役員会・幹事会）６月11日、７月16日、９月17日、10月15日、1月21日、３月17日の合計６回、かながわ労働プラザにて開催。
（会誌）『考古論叢神奈河』第12集を2004年４月に刊行。論文６本を掲載。
（連絡誌）『考古かながわ』27号、28号、29号をそれぞれ８月、12月、３月に刊行。
（講座）2004年３月７日、かながわ県民センターにて「考古から近世・近代へのアプローチ」と題して開催。参加者は約100名。
（見学会）県内における発掘調査現場の見学会として鎌倉市大倉幕府周辺遺跡群（11月29日)、「房総の古墳」をテーマとして県外への日帰りバス旅行を実施。千葉県において房総風土記の丘等を見学（２月７日）。
（発表会）第27回遺跡調査・研究発表会を10月19日に横浜市開港記念会館で開催。藤沢市遠藤山崎遺跡ほか８遺跡の発掘調査成果の報告と小林謙一さんによる講演「ＡＭＳ^{14}Ｃ年代測定を利用した縄紋時代研究の新展開」が行われる。

議事２　2003年度収支決算報告

別掲のとおり、2003年度の収支決算が報告されました。2003年度の収支決算を見る限り約100万円の黒字決算となっていますが、2003年度当初には前年度からの繰越金が約150万円あったことを勘案すると単年度では実質50万円の赤字であることが報告されました。決算報告に引き続き監事からの会計監査報告が行われ、拍手をもって承認されました。

議事３　2004年度事業計画案

（総会）総会は2004年６月12日、かながわ労働プラザにて開催。
（役員会・幹事会）５月19日以降、おおむね２ヶ月に１回の間隔で年６回程度の開催を予定。
（会誌）『考古論叢神奈河』第13集を2003年５月21日に急逝された本会元役員の織笠昭さん追悼号として2005年４月に刊行予定。
（連絡誌）『考古かながわ』30号、31号、32号として年３回の刊行を予定。
（講座）2005年２月６日、県民センターにて開催を予定。テーマは横穴墓。
（見学会）５月30日に三浦市の海蝕洞穴遺跡の見学会開催。このほか例年どおり県内１回、県外１回の合計３回の見学会を開催予定。
（発表会）第28回遺跡調査・研究発表会を10月３日に横浜市の開港記念会館で開催予定。

このほか長年の懸案事項であった会員への刊行物の無料配布についてですが、2003年度から会誌『考古論叢神奈河』の無料配布を実現したことを報告しました。会員の皆様がお納めになった会費に見合った刊行物を受け取れるようにすることは、予算の上では刊行物販売収入の減少につながるという皮肉な側面を持ち合わせていますが、会の運営を向上させる一層の努力を前提として、会誌の無料配布実施に踏み切りました。

議事４　2004年度収支予算案

別掲のとおり、上記の事業計画案とともに2004年度の収支予算案が審議され、満場一致で拍手により承認されました。本会の財政事情は2003年度の収支決算報告（議事２）に示されたとおり、今後より一層の緊縮運営をしなければ２年後には繰越金がゼロの状況となるという将来展望が予算案の提案にあわせて説明されました。こうした状況をふまえて今年度の予算案質疑では会場の会員から活発な意見が述べられ、例年になく熱気のある総会の予算案審議となりました。

かながわ考古トピックス2004の開催

総会の議事終了後、毎年恒例となったかながわ考古トピックス2004が開催され、以下のとおり４名の講師による興味深いお話がありました。

縄文時代…中川真人さん、古墳時代…田村良照さん、古代…菅沼圭介さん、中世…佐藤仁彦さん。

中川さんからは津久井郡城山町の国指定史跡川尻石器時代遺跡の史跡整備事業にともなう発掘調査の成果が報告され、佐藤さんからは逗子市の国指定史跡名越切通の史跡整備事業にともなう発掘調査の成果がそれぞれ報告されました。この２遺跡の発掘調査報告は、埋蔵文化財の活用が近年、声高に叫ばれる社会情勢の反映と見ることができます。田村さんはご自身が主たる研究テーマとされている横穴墓について、韓国における最近の横穴墓発見のニュースを紹介しながら、予定した時間を大幅に超過した熱気あふれるものでありました。田村さんご自身も発表の最後に予告をされていましたが、2005年２月６日に開催予定の考古学講座では横穴墓をテーマとすることが既に決定しており、今から年明けの考古学講座に期待がふくらむところです。菅沼さんからは今年３月に平塚市の東中原Ｅ遺跡第４地点の発掘調査で発見された古代東海道の駅路遺構について報告がありました。相模国の古代史像を解明するうえで重要な発見であると考えられます。

神奈川県考古学会では今年度も会員の皆様のご期待に応えられるよう、役員一同、努力して会務の遂行に邁進する所存です。会員の皆様にはより一層のご支援をお願いいたします。

（総務担当役員　小林康幸）

2003年度収支決算書

（収入の部）

節	予算額	決算額	比較増減額	説明			
会費	1,119,000	1,119,000	0			3,000 × 373 名＝	1,119,000
機関誌等売り上げ	1,101,460	772,970	▲ 328,490	発表会要旨			180,620
				（内訳）	22回要旨(会員)	700 × 6 部＝	4,200
					26回要旨(会員)	500 × 5 部＝	2,500
					26回要旨(一般)	1,000 × 1 部＝	1,000
					26回要旨(委託0.:	700 × 3 部＝	2,100
					27回要旨(会員)	300 × 107 部＝	32,100
					27回要旨(一般)	1,200 × 110 部＝	132,000
					27回要旨(委託0.:	840 × 8 部＝	6,720
				考古論叢			385,050
				（内訳）	論叢1(一般)	2,300 × 3 部＝	6,900
					論叢2(委託0.8)	1,840 × 1 部＝	1,840
					論叢2(委託0.7)	1,750 × 1 部＝	1,750
					論叢3(会員)	1,800 × 2 部＝	3,600
					論叢3(一般)	2,500 × 2 部＝	5,000
					論叢3(委託0.8)	2,000 × 2 部＝	4,000
					論叢3(委託0.7)	1,750 × 1 部＝	1,750
					論叢4(一般)	2,500 × 1 部＝	2,500
					論叢4(委託0.8)	2,000 × 4 部＝	8,000
					論叢4(委託0.7)	1,750 × 2 部＝	3,500
					論叢5(一般)	2,500 × 1 部＝	2,500
					論叢5(委託0.8)	2,000 × 3 部＝	6,000
					論叢6(会員)	1,500 × 1 部＝	1,500
					論叢6(一般)	2,500 × 1 部＝	2,500
					論叢6(委託0.8)	2,000 × 4 部＝	8,000
					論叢7(会員)	1,500 × 1 部＝	1,500
					論叢7(一般)	2,500 × 2 部＝	5,000
					論叢7(委託0.8)	2,000 × 7 部＝	14,000
					論叢7(委託0.7)	1,750 × 2 部＝	3,500
					論叢8(会員)	1,500 × 2 部＝	3,000
					論叢8(一般)	2,500 × 1 部＝	2,500
					論叢8(委託0.8)	2,000 × 3 部＝	6,000
					論叢8(委託0.7)	1,750 × 1 部＝	1,750
					論叢9(会員)	1,500 × 4 部＝	6,000
					論叢9(一般)	2,500 × 3 部＝	7,500
					論叢9(委託0.8)	2,000 × 5 部＝	10,000
					論叢9(委託0.7)	1,750 × 2 部＝	3,500
					論叢10(会員)	1,500 × 7 部＝	10,500
					論叢10(一般)	2,500 × 4 部＝	10,000
					論叢10(委託0.8)	2,000 × 2 部＝	4,000
					論叢10(委託0.7)	1,750 × 1 部＝	1,750
					論叢11(会員)	1,500 × 39 部＝	58,500
					論叢11(一般)	2,600 × 35 部＝	91,000
					論叢11(委託0.8)	2,080 × 37 部＝	76,960
					論叢11(委託0.7)	1,750 × 5 部＝	8,750
				講座要旨			207,000
				（内訳）	講座縄文起源Ⅱ(会員)	700 × 5 部＝	3,500
					講座縄文起源Ⅱ(一般)	1,000 × 6 部＝	6,000
					講座縄文起源Ⅱ(委託0.7)	700 × 9 部＝	6,300
					講座縄文ムラ(会員)	800 × 6 部＝	4,800
					講座縄文ムラ(一般)	1,000 × 6 部＝	6,000
					講座縄文ムラ(委託0.7)	700 × 13 部＝	9,100
					講座寺院(会員)	500 × 7 部＝	3,500
					講座寺院(一般)	1,500 × 1 部＝	1,500
					講座寺院成果(会員)	500 × 6 部＝	3,000
					講座寺院成果(一般)	1,500 × 5 部＝	7,500
					講座寺院成果(委託0.7)	1,050 × 8 部＝	8,400
					講座中世(一般)	1,500 × 9 部＝	13,500
					講座中世(委託0.8)	1,200 × 12 部＝	14,400
					講座学史(会員)	500 × 51 部＝	25,500
					講座学史(一般)	1,500 × 16 部＝	24,000
					講座近世(会員)	500 × 47 部＝	23,500
					講座近世(一般)	1,500 × 31 部＝	46,500
				トピックス			300
				（内訳）	トピックス2000	100 × 3 部＝	300
雑収入	10,000	16,074	6,074	見学会参加費/預金利子/懇親会残り/他			16,074
繰越金	1,571,089	1,571,089	0	前年度繰越金			1,571,089
合計	3,801,549	3,479,133	▲ 322,416				

（支出の部）

節	予算額	決算額	比較増減額	説明	
事務局費	360,000	367,682	7,682	連絡費	298,913
				会議費	18,240
				行事開催費	26,432
				賃金	5,810
				会費振込手数料	18,287
会誌費	935,000	921,410	▲ 13,590	連絡費	15,010
				会議費	500
				印刷費	900,900
				謝礼	5,000
連絡誌費	130,500	117,825	▲ 12,675	連絡費	2,220
				印刷費	115,605
				謝礼	0
発表会費	468,000	370,305	▲ 97,695	連絡費	17,360
				会議費	0
				行事開催費	80,945
				印刷費	252,000
				謝礼	20,000
講座費	495,000	503,949	8,949	連絡費	9,350
				会議費	28,092
				行事開催費	81,107
				印刷費	365,400
				謝礼	20,000
見学会費	90,000	90,088	88	連絡費	83,938
				会議費	3,000
				行事開催費	3,150
				謝礼	0
予備費	1,323,049	21,000	▲ 1,302,049		21,000
合計	3,801,549	2,392,259	▲ 1,409,500		

＊収入(3,479,133円)－支出(2,392,259円)＝次年度繰越金(1,086,874円)

会計監査報告

2003年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金残高と照会した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

2004年5月29日

監事　市川規平㊞

伊藤郭㊞

2004年度収支予算案

（収入の部）

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明	
会費	1,140,000	1,119,000	21,000	会費	3,000 × 380 名＝ 1,140,000
機関誌等売り上げ	1,000,000	1,101,460	▲ 101,460	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売り上げ	
雑収入	10,000	10,000	0	見学会参加費/預金利子/親睦会残り/他	
繰越金	1,086,874	1,571,089	▲ 484,215	前年度繰越金	
合計	3,236,874	3,801,549	▲ 564,675		

（支出の部）

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明		備考
事務局費	209,000	360,000	▲ 151,000	連絡費	150,000	連絡誌の発送費等を「連絡誌費」へ組み替え
				会議費	16,000	
				行事開催費	24,000	
				会費振込手数料	19,000	
会誌費	931,000	935,000	▲ 4,000	連絡費	15,000	
				会議費	1,000	
				印刷費	910,000	発送費を含める
				謝礼	5,000	
連絡誌費	271,000	130,500	140,500	連絡費	150,000	連絡誌の発送費等を「事務局費」から組み入れ
				会議費	1,000	
				印刷費	120,000	
発表会費	421,000	468,000	▲ 47,000	連絡費	20,000	
				会議費	1,000	
				行事開催費	100,000	
				印刷費	280,000	
				謝礼	20,000	
講座費	480,000	495,000	▲ 15,000	連絡費	5,000	
				会議費	5,000	
				行事開催費	100,000	
				印刷費	350,000	
				謝礼	20,000	
見学会費	95,000	90,000	5,000	連絡費	80,000	参加費を徴収する催しについては予算計上しない
				会議費	2,000	
				行事開催費	3,000	
				謝礼	10,000	
予備費	829,874	1,323,049	▲ 493,175		21,000	
合計	3,236,874	3,801,549	▲ 564,675			

三浦市の海蝕洞穴遺跡と標式遺跡を見学して

土 井 永 好

平成16年５月30日（日）、前日までの天気予報は〝くもり〟。されど京急・三浦海岸駅前に集合した午前10時には、すでに蒸し暑い初夏の気候となっていました。

私は小学5年の息子を連れ立って、久しぶりの見学会参加となりました。というのも、息子にとって三浦市は母親の実家に近いこともあり、度々訪れる町の割にはお定まりの「油壷マリンパーク」「城ヶ島」「小網代の森」程度しか縁がなく、また自分が住む相模原市との地域比較が学校の社会科での学習課題となっていることから、私としては三浦市の違った一面を見せてやりたかった訳でした。

一行を乗せた貸切バスは、三浦海岸から金田漁港を通過し、松輪に向かいました。最初の見学地となる「間口洞穴遺跡」までは、道路工事の影響で松輪郵便局近くから徒歩で坂を下ることになり、途中、半農半漁と思しき生活者の姿なども垣間見ながら遺跡の置かれている環境が理解できました。

間口洞穴遺跡では、今回の案内役となった中村勉氏のわかりやすい解説を冒頭に拝聴し、地質の話題を交えた海蝕洞穴の成因や房総半島との関係、活発化する昨今の研究事情など要点をつかめました。洞穴の入口部周辺はうっそうとして霊気さえ感じさせ、まるで訪れる人を拒んでいるかのような雰囲気をつくり出しいていました。洞穴内は当然のごとく真っ暗で危険な感じがしましたが、往時は海岸からの光を受け生活には支障がなかったと思われました。

続いて南に隣接する「さぐら浜洞穴遺跡」を見学し、移動中には今も繰り返されている海蝕の様子の説明を受けました。

3番目は、西側対岸にある「大浦山洞穴遺跡」。そして、その真上に広がる開地の「大浦山遺跡」と連続して見学し、亡き赤星直忠・岡本勇両氏の業績を再確認することができました。

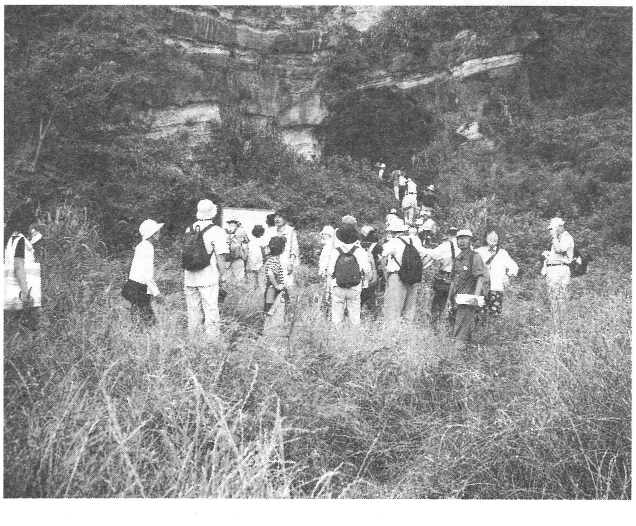
風力発電施設のある宮川公園での昼食をはさみ、5番目は「毘沙門洞穴遺跡」。当日のハイライトとも言うべきで、形状、空間、分布などが理解できるモデルのような洞穴でした。また入口部から海の方を眺めた様子は、ちょうど横穴古墳の羨門部から外界を見る構図と等しいものを感じました。

見学会の終盤は、標式遺跡めぐりで「諸磯遺跡」「鵜ヶ島台遺跡」を案内してもらいました。前者は住宅地の間に広がる畑地ですが、天地返しされ赤土に覆われた状況で、遺跡名を刻んだ石碑が悲しげにたたずんでいるかのようでした。後者は油壷マリンパーク前面の市営駐車場の向かいに広がる更地で、特に標示はなく、これまで何回となく見過ごしていた場所でした。両者とも著名な遺跡にもかかわらず訪れるのは初めてで、感動と落胆が交錯する不思議な気持ちになりました。予定の「三戸遺跡」は、時間の関係で割愛（単独で見学することに…）。

今回の所感としては、洞穴遺跡の分布域に城ヶ島が入っていない理由はなぜか。また、洞穴は立地条件等により、将来に渡り現状保存が可能なのか。発掘調査の計画はあるのか。等々、帰路につきながらいろいろなことが頭を駆け巡りました。

終わりに、親バカぶりを省みず同行した息子の感想を載せさせていただきます（原文のまま）。また、役員の方々にも文中ながらお礼申し上げます。

「ツアー当日、ものすごく暑くてたいへんでした。ぼくもエジプトのいせきには興味があるので、とても楽しみにしていました。どうくつやいせきをバスでまわったため、のりおりがきつかったです。大うら山どうくつの中に入ったら上から水がたれてきてびっくりした。一番いんしょうに残ったのは、びしゃ門どうくつで、その中に入ったらかなりおくまで続いていて、さらに行こうとしたら石でふさがれていたのでざんねんでした。」



茅ヶ崎の台地と低地を歩く
～茅ヶ崎文化財散策～

茅ヶ崎市教育委員会　大　村　浩　司

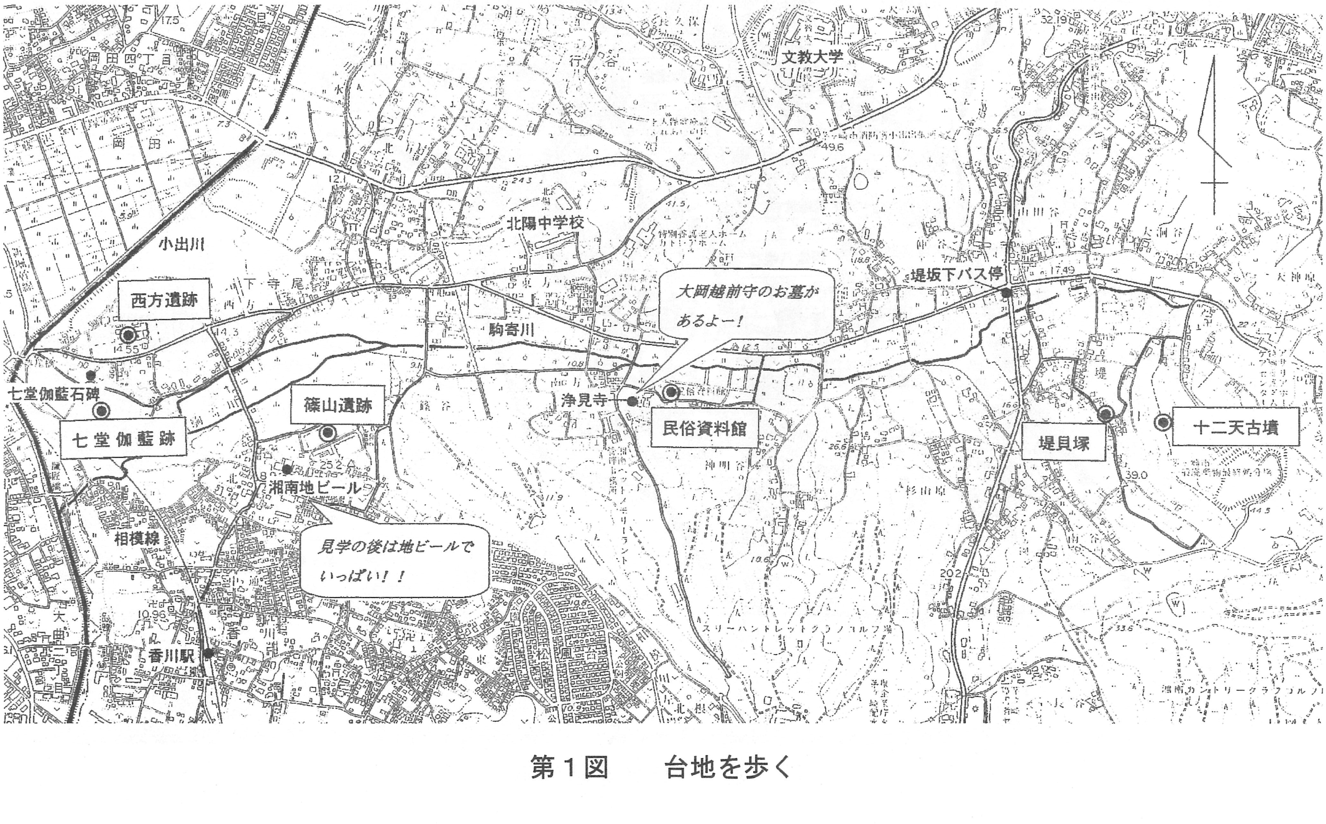
茅ヶ崎市は神奈川県の中南部に位置する湘南の中核都市で、南は相模湾に面しており、海岸線は約６㎞を測ります。また、西には相模川が南流しています。茅ヶ崎市の地形は大きく北部の台地と南部の低地に分けることができ、このうち低地は約3分の2を占めています。

ここでは、茅ヶ崎を形成しているこの二つの地形をそれぞれ散策しながら遺跡や文化財を訪ねるコースを紹介してみたいと思います。

台地を歩く(第1図)

茅ヶ崎駅北口から湘南ライフタウンか文教大学行きのバスに乗り、堤坂下で下車すると東側にやや小高い地形を目にすることができます。道に沿って登っていくと、そこには学史で著名な**堤(つつみ)貝塚**が所在しています。この貝塚は昭和10年代から調査が行われており、縄文時代後期の貝塚のほか竪穴住居跡も確認されており、平成４年には西貝塚が神奈川県の史跡に指定され保存されています。出土品には、朝顔型の深鉢や精巧な注口(ちゅうこう)土器のほかダンベイキシャゴ、ハマグリ、バイ、ツメタガイなどの貝類、魚骨（マダイ、カツオ等)、獣骨（イノシシ、ニホンジカ、イヌ、サル等）があります。これらは当時の生活を知る上で注目される資料です。なお、出土品資料は後述する文化資料館に展示されています。ここから東隣の尾根に進むと**十二天(じゅうにてん)古墳群**が所在しています。昭和50年に行われた確認調査の結果によると、北側には円墳（直径約20m)、南側には前方後円墳（全長約30m幅約15m）があることが報告されています。時期は古墳時代後期のものとされており、この地域を治めた豪族の墓と考えられています。

この地区を後にして西に向かう道を進み、路傍の**馬頭観音**などを観察しながら、次の目的地である**民俗資料館**へ向かいます。ここは市内に残っていた江戸時代の古民家２棟を移築したもので、市重要文化財に指定されています。中には民具資料も一部展示してあります。ここを利用して３月に雛祭り、５月に鯉のぼりと端午の節句などの年中



第１図　　台地を歩く

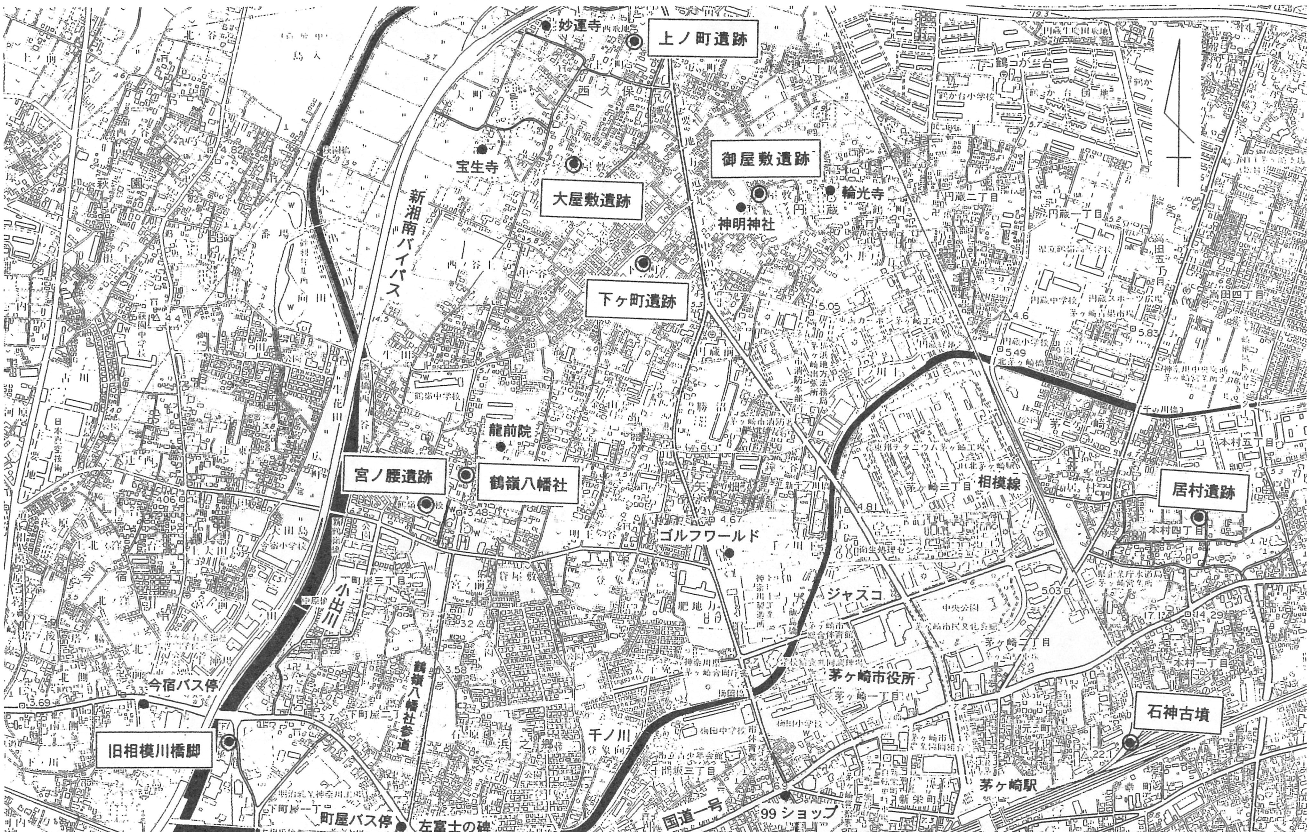
行事を体験できます。秋にはお月見が控えております。なお、敷地内にはこれから向かう七堂伽藍跡から出土した**礎石**が野外展示されています。民俗資料館の東側には、大岡祭で有名な**浄見寺**があります。この浄見寺にある**オハツキイチョウ**と**寺林**は神奈川県の天然記念物に、**銅造弁才天坐像**は重要文化財に指定されており、また、**大岡家一族墓所**（忠相の墓もあります）は市史跡に指定されています。

浄見寺を後にしてさらに西に向かう途中には、高座丘陵と低地の区別を見ることができる場所があります。なお、南側に見える独立丘には弥生時代の東海系土器が出土する**篠山遺跡**が所在しています。現在その多くはテニス場となってしまいました。また、この台地の崖面からは**篠山・篠谷横穴群**が発見されています。さらに、テニスコートの西側では、板碑や石塔が多く発見されている**中世墓址**が所在します。ここから北西に向かい台地に進むと、天気の良い日には西側に富士山や大山、丹沢などが望めます。この西へ張出した台地には、現在、県立茅ヶ崎北陵高校が建っています。この校庭（**西方遺跡**）から平成14年に県内では４例目となる郡衙跡が発見され**高座郡衙**と推定されています。また、規模の大きな弥生時代中期の**環濠集落**も発見されています。この台地の南側には**下寺尾七堂伽藍跡**が所在しており一角に記念碑が建っています。現在、教育委員会が中心となって確認調査を進めており保存整備を目指しています。

ここから香川駅に向かい相模線を利用して帰途につくことができますが、時間があれば近くにある地ビールのレストランでのどを潤すもの一興かもしれません。

低地を訪れる(第2図)

茅ヶ崎駅北口から、寒川神社行きのバスに乗り



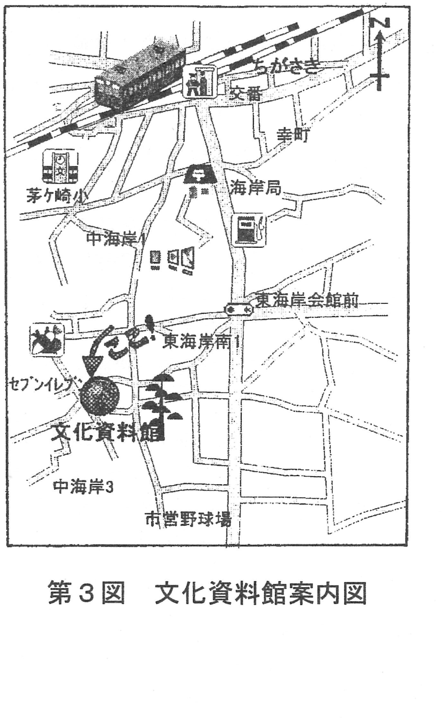
第２図　　低地を訪れる

円蔵で下車します。バス通りの東側には、複雑に折れ曲がっている道がありその一角に**神明神社**が鎮座しています。この一帯は**御屋敷遺跡**と呼ばれ、鎌倉時代にこの地に館を構えたという**懐島景義の館跡**と伝えられています。近年周辺の発掘調査から、次第にその実態が明らかになってきています。周辺一帯は自然堤防上に位置する遺跡（**上ノ町・下ヶ町・大屋敷遺跡**）が密集しており先程のバス通り沿いに道路建設時の調査成果が**説明板**と**モニュメント**で設置される予定です。バス通りより西に向かうと、茅ヶ崎で由緒のある**鶴嶺八幡社**が鎮座しています。この神社は平安末に建立されたといわれ、周辺には別当が数多く位置していたとされます。**宮ノ腰遺跡**をはじめとする周辺での発掘調査が進み、こうした内容の一部が確認されるとともに、それ以前の弥生時代末からの足跡が明らかになってきており、自然堤防における生活の開始が明らかになってきています。市の天然記念物と史跡に指定されている**鶴嶺八幡社参道**を南に歩き、鳥居をくぐってから国道に沿って西に向かうと、小出川と交差する部分に**国指定史跡旧相模川橋脚**が位置しています。本史跡は、大正年間に関東大震災により水田から橋杭が出現したもので、当時の歴史学者沼田頼輔博士によって、鎌倉時代に頼朝の家来であった稲毛重成が亡妻の供養のために相模川に架けた橋の橋脚であろうと考証されました。平成13年から保存整備事業を進めており、今年（平成16年）度の下半期から本格的な整備工事に着手致します。現在（7月中旬～8月末)、整備に先立ち発掘調査を進めており8月21日に現地説明会を予定しています。この史跡は、大正15年に指定されていますが、中世橋遺跡として希少価値があるほか、地震で出現したという内容を加味しますと、全国で唯一のものと思われます。今後、整備等をとおして本史跡に対する再評価を行う必要があると思われます。橋脚を後にし、今宿バス停から国道に沿ってバス利用で駅への帰途につけます。

なお、オプションですが、茅ヶ崎駅南口から海岸に向かう道沿いには**茅ヶ崎市美術館**、そして**文化資料館(第3図)**があります。資料館は規模こそ小さいですが、市内の考古・民俗・自然の資料を多数展示しております。是非訪れてみてください。ここから海まではわずかですから、足を伸ばして**烏帽子岩**をご覧になるのもよいでしょう。ちなみに烏帽子岩は茅ヶ崎で最も古い地層でできています。駅までの戻りは、雄三通り（古くは上原謙通り）と呼ばれるまっすぐな道が早いと思われます。

さて、茅ヶ崎駅からそれぞれの帰途に着かれるのでしょうが、最後に茅ヶ崎駅構内に所在する**石神古墳**を紹介して終わりとします。プラットホームから東へ約450ｍの地点で、東海道線と相模線が分岐する場所があります。ここに大きな石が置かれていますが、これは古墳時代後期の石神古墳の石室に使用された天井石といわれています。昭和63年にこの地点で行われた調査によって、部分的に古墳の葺石が残っていることが確認されました。残念ながら、自由に出入りすることはできませんが、電車（特に相模線）から石をみることはできます。また、その東側地点では、厚さ1.5～２ｍの砂に覆われた古代集落、**石神遺跡**も発見されています。さらに、ここから北東600ｍには木簡が出土した**居村遺跡**が所在しています。

砂丘上に位置する古墳と集落、これらはサザンオールスターズの歌にある「砂混じりの茅ヶ崎」を象徴する遺跡かもしれません。



第３図　文化資料館案内図

2004年８月以降の催し物情報

—８月—

展示会

東海大学校地内遺跡調査団「ご近所の考古学」

日　時：８月19日(木)～８月25日(水)　10：00　～　17：00

会　場：東海大学サテライトオフィス地域交流センター

交　通：小田急小田原線東海大学前駅徒歩１分

問い合わせ：東海大学校地内遺跡調査団（電話：0463-50-2419）

第14回鎌倉市遺跡調査・研究発表会

日　時：８月22日(日)　10：00　～15：45頃

会　場：鎌倉生涯学習センターホール

内　容：市内調査遺跡の発表５遺跡

　講演　五味文彦「武家の古都鎌倉～世界遺産登録にむけて～」

交　通：ＪＲ鎌倉駅東口徒歩３分

入場無料・資料代有償配布(予価1000円程度)

問い合わせ：鎌倉市教育委員会文化財課

（電話：0467-23-3000　内線469）

—９月—

中世都市研究会2004鎌倉大会「交流・物流・越境」

開催日：９月４日(土)・５日(日)

会　場：鎌倉女子大学二階堂学舎

交　通：JR横須賀線鎌倉駅東口下車。金沢八景方面バス約8分

参加費：２０００円（資料代込）

問い合わせ：中世都市研究会鎌倉大会事務局（東京大学文学部アネックス五味科研研究室）

(FAX:03-5841-1252　E-mail:pmcsk04@yahoo.co.jp)

関連催し：源頼朝建立の寺、永福寺跡見学会

日　時：９月４日(土)　10：00　鎌倉駅東口集合

解　説：福田誠（鎌倉市教育委員会）

—10月—

展示会

秋期特別展「掘り起こされた平塚Ⅲ」

場　所：平塚市博物館

期　間：10月２日(土)　～　11月７日(日)

関連催し：「地域の歴史を知る」

日　時：10月17日(日)　10：00　～　16：30

内　容：平塚市遺跡発表会、記念講演　鈴木靖民「古代の相模国」

　ミニシンポジウム「相模国の地方官衙の現状と課題」

場　所：平塚市中央公民館小ホール

定　員：２５０名（要申込）

問い合わせ：平塚市博物館（電話：0463-33-5111）

第28回　神奈川県遺跡調査・研究発表会

日　時：10月３日(日)９：40　～　16：40頃

会　場：横浜市開港記念会館　講堂

交　通：ＪＲまたは地下鉄関内駅徒歩５分

内　容：1 茅ヶ崎市芹沢所在遺跡

　2 横浜市矢崎山西遺跡

　3 茅ヶ崎市小出川関連遺跡

　4 鎌倉市大倉幕府周辺遺跡群

◎弥生時代の発表に関するコメント

　5 横須賀市かろうと山古墳

　6 厚木市中依知遺跡

◎古墳時代の発表に関するコメント

　7 海老名市社家宇治山遺跡

　8 平塚市湘南新道関連遺跡

　9 山北町河村城跡

　10 小田原城跡

　11 二代目横浜駅

◎紙上発表

　城山町国指定史跡川尻石器時代遺跡

　海老名市秋葉山古墳４号墳

入場無料(発表要旨は有償で配布)

その他：図書交換会

お　知　ら　せ

◎総会報告の中でもふれましたが、2003年度から当該年度の会費を納入している会員の方には会誌を無料配布することになりました。事務処理上、年度内に会費を納入済みの会員の方には会誌刊行時に**送料を会負担**でお送りしますが、年度を過ぎてから会費納入の方は納入確認後、**送料会員負担の着払い**でお送りします。会の財政状況が厳しい中、会費前納制・会の健全運営にご理解、ご協力をお願いします。

◎2005年4月刊行予定の『考古論叢神奈河』第13集はご案内のとおり、織笠昭氏の追悼号となります。その関係で第13集の原稿募集は今回行ないません。ご注意下さい。

考古かながわ　第30号

発　行　神奈川県考古学会

発行日　2004年８月19日

編集者　秋田かな子・安藤文一・河野真知郎・渡辺　務

印　刷　(有)湘南グッド

発行者　神奈川県考古学会会長　寺田兼方

〒251-0043

藤沢市辻堂元町4-17-4 やよい荘102

郵便振替　00240-9-71208